

四十手誌

目 次

* 思い出のアルバム

* あいさつ

平塚軟式庭球協会会長	藤本市郎	4
------------	------	---

* 祝 辞

平塚市長	石川京一	5
------	------	---

平塚市議会議長	片倉常夫	6
---------	------	---

平塚市教育委員会教育長	山口八郎	7
-------------	------	---

平塚市体育協会会長 (神奈川県軟式庭球連盟会長)	河野洋平	8
-----------------------------	------	---

平塚スポーツ振興審議会会長	古家安治	9
---------------	------	---

* 県内関係団体からの祝辞

横浜市軟式庭球協会会長	志村重正	10
-------------	------	----

横須賀軟式庭球協会会長	白戸光雄	10
-------------	------	----

小田原軟式庭球協会会長	露木一進	11
-------------	------	----

藤沢軟式庭球協会会長	杉山清隆	12
------------	------	----

神奈川県家庭婦人軟式庭球連盟理事長	金児忠枝	12
-------------------	------	----

神奈川県学生軟式庭球連盟理事長	奥山泰直	13
-----------------	------	----

神奈川県高体連軟式庭球部委員長	瀬戸幹男	14
-----------------	------	----

神奈川県中学校体育連盟軟式庭球部		14
------------------	--	----

* 平塚軟式庭球協会の沿革		16
---------------	--	----

* 幻影の松風コート	柿澤篤太郎(元平塚市長)	18
------------	--------------	----

* 平塚軟式庭球40周年記念に際して	藤本市郎	20
--------------------	------	----

* 大久保公園コートの思い出	鳥海秀次	22
----------------	------	----

* 平塚インドアのこと	笠井 栄	25
-------------	------	----

* 平塚軟式テニスに忘れられない人々	鳥海秀次	27
* クラブ紹介		
達上クラブ		31
白陵クラブ		32
平塚市役所軟式庭球部		32
湘南クラブ		33
なでしこクラブ		34
日本たばこ産業(株)生産技術研究所		34
東京電力神奈川支店庭球部		35
神田テニスクラブ		36
ホワイトクラブ		36
小松軟式テニスクラブ		37
二宮テニスクラブ		38
* 平塚庭球協会創立以降の登録実績表		40
* 平塚庭球協会創立以来の加盟団体		43
* 昭和63年度平塚軟式庭球協会登録団体		48
* 昭和63年度平塚軟式庭球協会役員		50
* 平塚軟式庭球協会規約		53
* 大会記録(昭和21年度～63年度)		
市大会・県大会・中央大会・県ランキング等		57
* 編集後記		



あ い さ つ

平塚軟式庭球協会

会長 藤 本 市 郎

平塚軟式庭球協会40周年を迎え、若い役員の方々の発案により、記念誌を作り、平塚軟式庭球を回顧し、会員の参考にしたいとのことです。そのご尽力に対しお礼を申し上げます。

大東亜戦争敗戦後、平塚体育協会が出来、軟式庭球協会も発足し、同年神奈川県軟式庭球連盟へ加入いたしました。

その当時は町村合併の前でありましたので、平塚軟式庭球協会は中郡を包含しておりました関係で平塚市軟式庭球協会とせず平塚軟式庭球協会といたしました。

昭和31年に町村合併により、中郡の一部地域を除き平塚市の軟庭となりました。

当時は平塚市営の庭球場はありませんでしたが、元市長柿沢篤太郎氏が相当の無理して、昭和30年9月に松風庭球場に11面を建設完成し、次年度に於いて一切の諸問題を解決する予定でありましたが、市長交代で、その目的が達せられず未解決のまま、昭和40年3月地主等の強い返却の要望により、あらゆる手を尽くし交渉しても実らず返却することとなり、誠に残念の極みでありました。

しかし、この庭球場で全日本労働者大会を開催されましたこと、昭和44年度神奈川県都市対抗戦に平塚市が初めて優勝いたしましたこと、せめての喜びとするところであります。

昭和45年当時の平塚市助役 西田共清氏は幸いにテニスマンであったため、平塚庭球の窺状を察し逸早く現在の田村に平塚市営軟式庭球場10面のコートを建設されたこと感謝いたしております。

昭和45年の神奈川県の都市対抗戦（県総体）に同コートで2回目の優勝をいたしましたこと、その感謝の現れかもしれません。

現在はこのコートを中心として大いに活躍されることを期待しております。

歳老いても出来る運動、健康を保持するに相応しいスポーツとして、自己の体験を通しお進めいたしますと同時に永続することをお進めいたします。

そして若い人達にも是非共、ご指導賜りたくお願いいたします。



お祝いのことば

平塚市長 石川 京一

平塚軟式庭球協会の発足40周年を心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和22年の発足以来、わが国で生まれた軟式庭球の普及と技術の向上を通じて、県大会はもとより国体や全日本大会において輝かしい戦績を残す選手の育成を図られ、本市スポーツの振興に大きな役割を果たしてこられました。さらに、わが国のトップクラスの選手を招待するインドア全日本選抜大会の開催など、市民のスポーツに対する関心を高められ、戦後の混乱期から今日までゆとりある豊かな市民生活の推進に多大のご尽力を賜りました。これまでいただきました歴代の会長はじめ役員の方々並びに会員のみなさんのご労苦に、深く感謝申し上げます。

近年、生活様式の上昇と余暇時間の増大に伴い、市民の健康に対する意識が高まり、様々なスポーツ活動が行われています。こうした中で、平塚市では本年4月にスタートした新平塚市総合計画～HOTプラン21～を機軸に、「健康と生きがいに満ちたふれあいある湘南の都市 ひらつか」の実現をめざしております。特に、市民のみなさんが身近にスポーツに親しめるよう総合公園をはじめとする諸施設の整備や昨年設立したスポーツ振興財団の制度の充実と基金の運用を図ってまいりたいと考えておりますので、今後ともご指導、ご協力をお願い申し上げます。

平塚軟式庭球協会におかれましては、この度の40周年を契機に、スポーツの振興のためなお一層のお力添えをいただくとともに、貴協会のますますのご発展並びに会員のみなさんのご活躍とご多幸をお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。



発刊を祝して

平塚市議会議長 片倉 常夫

このたび、平塚軟式庭球協会が発足40周年を記念して、ここに記念誌を発刊されましたことを、心からお喜び申し上げます。

貴協会は終戦後の混乱期にいち早く設立され、以来40年にわたり着実な発展をし、今日の隆盛をみましたことはまことに御同慶にたえません。

一口に40年と申しましても、この間の社会環境をかんがえますと、施設は当然のこと、用具等にも不自由をされたわけであり、歴代役員をはじめ関係者の方々の御苦勞、御尽力は並大抵のものではなかったと存じ、心から敬意を表するものであります。

御案内のとおり、近年、スポーツに対する関心は大いに高まり、年代を問わず多くの人々がスポーツに参加し、技を競うとともに、一方では体力づくりのために活動するなど多様化してきております。

軟式庭球は非常にハードな球技と承知しておりますが、反面、目標を健康づくりに絞りますと高齢になっても楽しめるスポーツであるとも聞き及んでおります。

このようなことから、選手の強化は当然のことではありますが、楽しみながら健康づくりを願う人人のために、貴協会の御活躍を期待するものであります。

終わりに、貴協会の益々の御発展をお祈りし、記念誌発刊に対しましてのお祝いのことばといたします。



創立40周年記念誌の発刊を祝して

平塚市教育委員会
教育長 山口 八郎

このたび、平塚軟式庭球協会が創立40周年の記念誌を発刊されましたことを心からお祝い申し上げます。

また、貴協会がこの40年の永きにわたり、平塚市のスポーツの発展向上に絶え間ない尽力をされましたことに対しまして、厚くお礼申し上げます。

貴協会が創立されました時期は、平塚市におきましても戦後の混迷期であり、施設や用具の面でも大変不自由な時代であったと思います。

こうした苦難な道を克服し、現在の貴協会の隆盛を顧みたときに、歴代の会長をはじめ多くの関係者の筆舌にあまご努力が偲ばれてなりません。

さて、近年は生涯スポーツの推進が大きく叫ばれ、文部省においてもスポーツ指導者制度やスポーツ・レクリエーション大会新設の施策等がうちだされ、また、国民体育大会が今年度より二巡目に入るなど、スポーツ界も新時代を迎えた感があります。

神奈川県におきましても、昭和73年度に国民体育大会の開催が決定し、これから諸準備段階に入ることになり、10年後を目指してスポーツ界が一段と活気づき、大きく飛躍することが期待されます。

平塚市におきましても、この数十年に一度の国民体育大会に際しまして、できる限りの努力をいたす所存であります。

こうした機運のなかで、市民スポーツの普及・発展を目的とする貴協会の果たす役割は極めて大きく、また重要であると思います。

貴協会におかれましては、この創立40周年を契機として、市民スポーツの発展に倍旧のご尽力を賜りますようお願いいたします。

終りに臨みまして、貴協会の一層のご発展を祈念いたしまして、創立40周年記念誌発刊に対しましてのご祝辞といたします。



お祝いのことば

平塚市体育協会会長
(神奈川県軟式庭球連盟会長)

河野 洋平

平塚軟式庭球協会の創立40周年を心よりお祝い申し上げます。

戦後間もなく、まだまだ機材も施設も不足している時代に、せめてスポーツで「心のゆとり」と、純粋に庭球を愛するお仲間が集まって設立された平塚軟式庭球協会は、常に平塚のアマチュア・スポーツをリードしてまいりました。その活動を支えてこられた役員の皆様をはじめ、多くの先輩のご労苦に対しまして、深く敬意を表する次第でございます。

高齢化社会を迎えつつあるわが国は、現在国民の1割を占めている65歳以上の人口が、近い将来全体の20%に上昇すると予想されており、スポーツを楽しむことによって健康の増進はもとより生活の充実を求めようとする気運が高まりつつあります。

こうした中で、昨年度の神奈川県体育協会加盟団体の登録人員をみてみますと、軟式庭球は野球連盟について2番目に多くの登録人員をかかえております。これは軟式庭球が、まさに「生涯スポーツ」の名にふさわしく、男女を問わず子供からお年寄りまで多くの皆さんに愛好されているからこそであります。

輝かしい歴史と伝統に支えられた平塚軟式庭球協会が、この40周年を契機として、平塚市民の健全な心身の発達と、明るく豊かな市民生活の向上に寄与すべく、さらに一段とご発展されますことを心より祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



祝 辞

平塚市スポーツ振興審議会
会長 古 家 安 治

今回平塚軟式庭球協会発足40年の記念誌が発刊され心からお祝い申し上げます。

貴協会は終戦直後の混乱期に発足して以来、40年の長きに至りテニスの発展のために大きな役割を果たされました。私も中学時代に軟式庭球をやって居りましたが、その少年時代のラケットの重さを今でも思い出します。

平塚市では5万坪の総合公園運動場内に観覧席2000人収容の硬式テニス場4面を始め、見附台体育館の2倍の大きさの総合体育館（床面積1700㎡、トレーニングサブフロア、バスケット2面、柔道場、剣道場、温水プール（50m×25m）弓道場）を新設されることが決定されました。

特に注目すべきは昭和73年には第53回国民総合体育大会が神奈川県で開催することになり平塚市、市体協会ではこの国体の種目を数多く誘致すべく努力中であります。

人生80年時代を迎えた今日、個人の価値感やライフスタイルは多様化され且つ人口の高齢化による生涯スポーツとしてはテニスが最適であります。

発足40周年を契機としますますのご活躍を心からお祈り申し上げます。

❖県内関係団体からの祝辞❖

祝 辞

横浜市軟式庭球協会会長 志 村 重 正

平塚軟式庭球協会の創立40周年を心からお祝い申し上げます。

協会の運営に当たられて、40年の歳月、その重みを感じざるを得ません。創立から今日にいたるまで、磯村名男会長はじめ、諸先輩の足跡をここに高く評価いたすものでございます。

平塚軟式庭球協会には、田村コートを利用させていただいての県下大会。あるいは他市協会に先駆けて企画、実行されておりますインドア大会。施設を有効に利用いたすばかりでなく、まさに協会役員の皆様のチームワークがしのばれるところでもあります。

このように、軟式庭球の普及と振興のために貴協会の果たされた功績は誠に多大であります。今後とも、軟式庭球のレベルアップと愛好者を広く集うことのために益々、興隆されますよう祈念いたしましてお祝辞といたします。

お 祝 い の 言 葉

横須賀軟式庭球協会会長 白 戸 光 雄

創立40周年を迎えられた平塚軟式庭球協会の皆様に心からお祝いを申し上げます。

発足された昭和23年と言いますと、いうまでもなく終戦直後のことであり、国民は敗戦のショックに打ちひしがれ、物資の欠乏もその極に達し、スポーツの喜びを味わうまでに至らない頃ではなかったかと思いますが、軟式庭球の熱心なファンは、そのような中から立ち上がって、次第に輪を作りつつあった頃、平塚の協会が結成され、発足されたということは、真に意義のあることと申さねばなりません。

現在もお元気で活躍の藤本会長さんをはじめ、鳥海さん、笠井さん、故人となられた前連盟会長の磯村さん、想起こそばまだ多くの方々、協会の結成に力を貸され、大きな輪となって行ったことと存じ、感慨に堪えません。

又、県の中央部に位置し、多くの大きな大会がかつての松風庭球場、現在の田村庭球場で開催され、役員の皆さんの御負担も大変であったろうと存じます。しかしながら、県内の軟式庭球を志す中学生、高校生は田村コートをメッカと心得て、何回か足を運んだ経験があることと思ひますし、何よりも県内唯一の専門の軟式庭球場として利用価値の高いことは言うまでもありません。

横須賀軟式庭球協会は今年創立以来56年目を迎えました、会員数の減少、高齢化等、いろいろ問題を抱えており、協会の活性化に頭を悩ましておりますが、今後とも問題点を究明して行きた

いと思っております。

平塚軟式庭球協会の結成40周年をお祝い申し上げるとともに、今後皆様のご活躍、ご発展を心から祈念申し上げてお祝いの言葉と致します。

創立40周年を祝して

小田原軟式庭球協会会長 露 木 一 進

平塚軟式庭球協会が発足してから40周年を迎えられ、記念行事として記念誌を発刊されますことは、誠に意義深く、慎んでお祝い申し上げる次第であります。

これ一重に会員各位の庭球に対する平素の御理解と御熱意の結果によるものであり、深甚なる敬意を表するものでございます。

40年前と言えば、戦後の混乱期にあって、国家の再興を目指し、焦土から立ち上がり、昭和21年第一回国民体育大会が京都において、開催されましたことを機会に、各スポーツ界は一斉に立ち上がり、第二回石川国体の開催には戦前同様に復活したのであります。

当時は、役員さんが米を持参し、品川駅より国体列車で参加した思い出があります。またボールや運動用品の統制時代であり、そして畑となっていたテニスコートの復活も遅々として進まない状態で、県内でも12～3面というような環境の中で、川崎、横浜、横須賀、鎌倉、藤沢、平塚及び小田原の都市のテニスの虫といわれる方々の努力により、県連盟が発足し、男子庭球大会が戦後初めて大船松竹のコートで開催されたように思い出されます。

県連盟の今日の発展と盛況を思うとき、先輩諸兄の御苦勞を忘れることができません。貴協会は、県央の地域にあって各種大会の開催を始め、県連盟に対しては、会長、副会長及び理事長を輩出し、その振興発展に御尽力をいただいているのであります。これも一重に和気あいあいとした家庭的雰囲気による結果によるものと存じ、ここに改めて深甚なる敬意を表する次第であります。

終わりに、今回創立40周年を祝って記念誌を発刊されることを機会に、この上にも一層の向上発展をされ、軟式庭球界の隆昌発展に寄与されますよう、併せて会員各位の御健勝をおいのりいたしましてお祝いのことばとさせていただきます。

平塚協会創立40周年記念にあたって

藤沢軟式庭球協会会長 杉山清隆

この度、協会創立40周年を迎えられ、心からお慶び申し上げます。

戦後の混乱期に、復興のエネルギーを求めて集った先輩方々が、地道な努力を続けられた結果、今日の平塚協会の隆盛があると言えます。

その先輩方が今もなおお庭を親しまれ、また、暖かい目で軟庭の発展、協会の運営に気を配られていることは、素晴らしいことと同時に感謝に耐えません。

現在、平塚協会は県連の中核を担い、県大会等ではお世話になる一方ですが、今後ともよろしくお願い致します。

藤沢協会におきましては、テニスコートの確保が当面の課題であります。平塚は松風コートから田村コートへ、そしてまた新たに立派なテニスコートが施工される計画と聞き及んでおり、誠に羨ましい限りです。これも皆様方の軟庭にかける情熱とご苦勞が成した結果でしょう。

とりわけ、松風コート11面での数々の思い出が走馬燈のごとく脳裏に浮び、懐しく思います。

コートについては、当方も平塚協会を見習い、行政に積極的に働きかけをしていながら青少年、家庭婦人の育成、指導により、藤沢、茅ヶ崎地域での底辺の拡大を図り、生涯スポーツとしての軟式庭球の更なる普及、発展のために精進していく覚悟でございます。お互いに頑張りましょう。

最後に、平塚協会のますますのご発展と、協会設立当初からご苦勞された方々のご健康をお祈り申し上げ、お祝いの言葉に替えさせていただきます。

40周年お祝いの言葉

神奈川県家庭婦人軟式庭球連盟
理事長 金児忠枝

平塚軟式庭球協会の発足40周年おめでとうございます。

貴協会は輝かしい歴史をもつ団体であり、神奈川軟式庭球界にも素晴らしい実績と成果をおさめ、私達にも大きな励みと勇気を与えてくれました。これはひとえに、貴協会の御尽力と団結の賜物でありましょう。

貴協会と県内家庭婦人軟式庭球連盟とのお付き合いも、婦人スポーツ団体の行事の一環として、健康増進と相互の親睦を主目的に、県内テニス人口の拡充を図ろうと、昭和50年11月29日、第一回県内家庭婦人軟式テニス大会（個人戦188組、団体戦41組）が平塚市菅田村庭球場で貴協会と実行委員会のもとで盛大に開催していただいたことは今も忘れることはできません。

以後、田村は、ホームコートとして運営は女性がとりおこない、年々充実、10年連続出場者も10人を超え、又強化においても、全日本レディース全国大会準優勝を引き金に関東選手権大会二

回優勝、関東家庭婦人大会優勝、東日本選手権大会準優勝を勝ち取るまでにいたり、盛會に推移しておりますことは、ひとえに地域協会はもとより、貴協会の御指導と御協力を得られたからこそ、今年も14回をむかへられ深く深く感謝申し上げます。県内家庭婦人のためこれからも今まで通りご支援とご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

スポーツは仲間づくり、新たな豊かさを求めて、心豊かな生活をおくるためにも不可欠なものと思います。私もこれからはテニス仲間とテニスの輪と親睦の和をひろげ、40年にあやかり永くつづけられますよう、頑張っていきたいと思います。

貴協会が軟式庭球界の牽引車として御活躍されますよう御期待申し上げますと共に、平塚軟式庭球協会のますますの発展と会員の皆様の御健勝を心から祈念しましてお祝いの言葉といたします。

祝 辞

神奈川県学生軟式庭球連盟
理事長 奥山泰直

この度は、平塚協会さんが発足40周年を迎える事が出来まして、誠におめでとうございました。常日頃より、平塚協会さんは、当県の軟式庭球発展に対して、惜しまぬ御協力と、努力を続けていますが、これこそ、当県の軟式庭球発展の基礎地盤であり、それに大きく貢献するものと確信致しております。また、そういった点が、学連としても見習うべき所であり、これから、より一層の努力が必要であると考えている次第です。

現在、学連は、登録人数が年々減少しており、それが大きな問題となっております。その問題を解決する策として、昨年、高校生との交歓試合を行いました。これの主たる目的は、縦のつながりを強化しようというものであり、これから、高校だけに止まらず、中学などにもつながりを持ちたいと思っています。

その他の策として、横のつながりを広げる意味で、神奈川県内にある未登録の大学、短大に新しく登録をするように呼び掛けをしています。

このように、縦のつながり、横のつながりを強化し、現在の学連での活動状況を知らせ、それぞれにコミュニケーションをとり、少しでも学連の事について理解してもらうよう努力しています。

登録人数の減少など、厳しい状況を迎えている今、こういった努力を続けていき、神奈川県の軟式庭球の発展に微力ながら協力していきたいと思っています。

平塚軟式庭球協会 40 周年によせて

高体連軟式庭球部委員長 瀬戸 幹 男

平塚軟式庭球協会が40周年を迎えられ、着実に歴史と伝統を築かれたことに對し、軟式庭球を愛好する者として敬意を表するとともに大変喜ばしく、お祝い申し上げます。

特に、平塚協会の主催による平塚インドア大会は、私達はもとより神奈川の中・高校生が一流選手のプレーを肌で感じて、軟式庭球に対する興味と競技力の向上を図る上で大きく寄与したことは真に意義深いものがあったと思います。

我が高体連軟式庭球部も本年40周年を迎えました。当初は、県連盟を中心に各協会の皆様方に大きく支えられながら一歩ずつ前進することが出来ました。

当平塚協会の方々には、以前の松風庭球場から現在の田村庭球場と高校生大会の会場と運営にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

高校生の活躍は昭和20年代の小田原高校、40年代の城内・大秦野・伊勢原高校、60年代の高津・東海相模・鶴嶺高校に引き継がれ、何故か20年サイクルで廻っている感があります。平塚協会傘下の時代には平塚江南・平塚工業・高浜高校等の活躍がありました。

また、近年各校とも軟式庭球部の部員数が減少傾向にあり憂慮しております。

競技力の向上はもとより、軟式庭球の愛好者を増加させる努力が必要な時となりました。日本連盟が今日的な課題として取り組んでいる国際化とオリンピック等はその成功に向けて努力が払われています。

昭和73年に神奈川県体の開催が決定している今日、平塚協会の皆様方にはジュニアに対する普及活動を中心に、高体連の活動に対しましても一層のご理解とご協力を賜りたくお願いを申し上げます。

平塚協会の益々のご発展を祈念し挨拶といたします。

おめでとうございます～40周年

神奈川県中学校体育連盟軟式庭球部

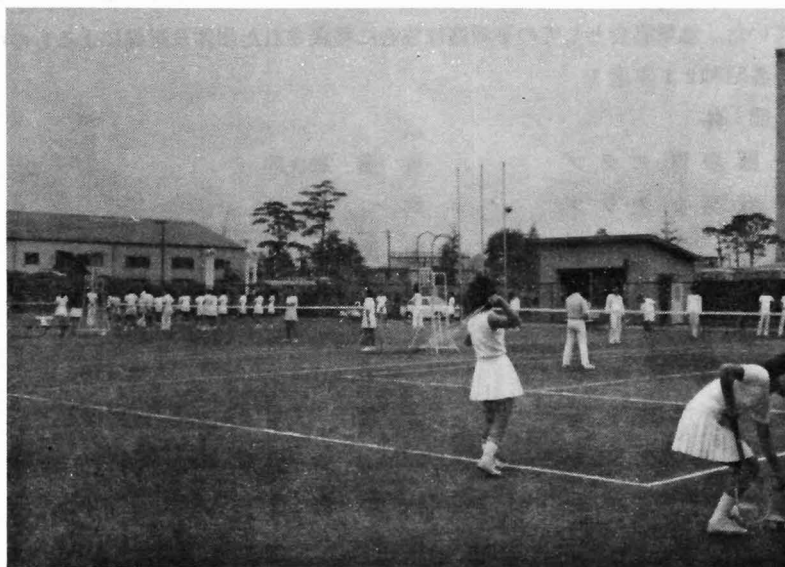
平塚軟式庭球協会が40周年を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。40年という長い歳月、平塚協会の発展のために御尽力された皆様の御苦勞と御努力は並々ならぬものであったに違いないと思います。そのことを考えますと40周年を迎えられましたお喜びも、又ひとしおではないでしょうか。我々中体連軟式庭球専門部が、今後学ばせていただかなければならないことも、その40年という中には数多くあったことと思っております。

その中でも特に我々が学ばなければならないものは「軟式庭球を通じての人と人のつながり」

なのだと思います。軟式庭球を愛し、情熱を傾ける者同士の中で生まれる信頼と友情。ラケットとボールを仲立ちに結ばれた人と人の和。こうした人のつながりこそが、平塚協会の40年を支えてきた原動力なのではないでしょうか。

中体連と県連盟。各地区協会との結びつきは、毎年、より緊密なものとなってきています。県の中学生選手権をはじめ、各地区主催による中学生大会、そして県のジュニア強化事業と、たくさんものを生み出してまいりました。しかし、一方課題も多く抱えているのも事実であり、中学生のスポーツ離れや、ジュニアへの軟式普及等は乗り越えなければならない壁なのだと思います。こうした課題を一つ一つクリアするために、連盟、協会と中体連はより強く手を握りあい、軟式庭球を発展させて行かなければならないわけですが、そこには「軟式庭球を通じての人と人のつながり」がより必要とされてゆくのではないのでしょうか。

そのことを、私達は平塚協会40周年の中に学ばせていただきたいと思っております。平塚協会が今後もますます発展されて行かれますことを心からお祈り申し上げます。



中学生テニス教室風景（田村軟式庭球場）